

活動紹介

■活動場所

四日市市から津市までの海岸が主な活動場所。
出前講座は、幼稚園や保育所、小学校、中学校、公民館等依頼があればどこへでも行く。

■活動日、活動頻度等

海岸での活動は5～10月はほぼ毎日。
出前講座は年間に20回ほど、イベントの参加は5回ほど、環境学習会とウミガメ報告会を年に各1回ずつ行っている。
その他は不定期に活動する。

■活動内容など

1. 海岸にウミガメの上陸跡がないか探しながら釣りや散歩している人に話しかけ、上陸跡を見つけたご連絡いただけるようお願いする。
2. 上陸跡発見の連絡があれば、現地に行き確認する。上陸跡であれば、他の調査機関と共同で調査する。
3. 産卵が確認されたら杭やロープやネット等で産卵巣を保護し、保護看板を設置する。
4. 台風襲来前に看板や杭等の流失が予想される場合は、可能な範囲で一時撤去する。
5. 台風通過後、被害を確かめ産卵場所の現状復帰をする。
6. 子ガメが脱出する(砂から出る)くらいの時期になれば、海岸清掃しウミガメロードを作る。
7. 子ガメの脱出を確認するため、メンバーと連携して毎日産卵場所を見に行く。
8. 子ガメが脱出して1～2週間後に、孵化率調査を調査機関と共同で行う。
9. 春には専門家を招いて環境学習会(講演会)を、秋にはウミガメ報告会を行う。
10. 出前講座では紙芝居やパワーポイント等を用いてウミガメの話をする。環境イベントにも参加して広報・啓発活動する。
11. 混獲について漁業関係者にお話を伺う。



代表者の環境や活動に関する思い

伊勢湾沿岸に20年後30年後もアカウミガメが産卵に来る事を願っている。ウミガメにとって大きな脅威は、混獲(意図せず魚網に捕獲される)と産卵場所である砂浜の減少である。漁業の大規模化や地球温暖化により、現在絶滅危惧種であるウミガメがさらに生きにくい状況になることが予想される。今後様々な団体と連携しながら、ウミガメの課題を少しでも改善できるような活動を行いたい。

その他 P R

アカウミガメが伊勢湾沿岸に産卵している現状を多くの人に周知し、保護活動を進めていくべきだと考える。啓発活動として、産卵場所には「子ガメを見守る時の注意点」を記してラミネートした紙を設置している。また子ガメ脱出後は産卵場所に「お礼」を記してラミネートした紙を設置している。ウミガメ講座のご希望があれば、是非ご連絡ください。